

各主体が実施する生物多様性保全に関する取組みの情報共有

＜団体名＞ 公益社団法人 大阪自然環境保全協会

◆ 取組内容 「 生物多様性推進委員会／生物多様性保全推進の取り組みづくり 」

「取り組みづくり／きっかけ体験」の支援活動をしています

- 生物多様性／その保全・生態系サービス
- 生物多様性地域戦略などの計画・戦略の例
- 自然環境＝山地・丘陵・農地・水辺などフィールド観察
- 保全と利用・生態系サービスなどの考え方
- 地域戦略など施策づくりへの課題／道すじづくり

生物多様性推進委員会では生物多様性の保全・地域戦略普及等推進の取り組み

生物多様性の保全や地域戦略の普及、その主流化などを進めるため取り組みを続けています。18年3月に策定された大阪市戦略の充実化に努め、また能勢町の地域戦略策定で協働を図る方針。

- (1)府内各自治体で生物多様性地域戦略を策定するよう呼びかけをする。
- (2)自治体などを対象とした「生物多様性取り組みきっかけづくり事業」の継続
- (3)生物多様性・自然環境基礎調査の普及
- (4)自治体や企業団体などを対象とした生物多様性の学習会・ミニ講座の開催
- (6)大阪府の地域戦略の進行状況を点検し、生物多様性の保全につながるよう提案していく。

※大阪市生物多様性戦略 具体的施策No.【 】 関連

各主体が実施する生物多様性保全に関する取組みの情報共有

(様式 1)

＜なにわの片葉葦保存会＞

◆ 取組内容 「大阪市内に現存が確認されている、湧水により涵養されている湿地の保全」

2011年9月代表である大島氏が大阪市内住宅地において葦原の茂る湿地を発見。そこに昔から伝説伝承などで語られている片葉葦が多くみられることから、片葉葦保存会が立ち上がった。

植生調査などから市内では数少なくなった在来湿地性植物及びレッドリスト植物、多くのトンボや水生動物などを確認。また葦の別名がなにわぐさ、葦原は古来よりおおさか（なにわ）を表す風景でもあり伝統や文化とつながるものでもあることから、この場所を大阪市内における後世へと伝えるべき貴重な場所として、保全と周知活動に努めている。

□ 実施方法

- 湿地含む現場の植生、昆虫調査。
- 調査において判明した現状と湿地の周知の為、
様々な環境系報告会などに参加、発表。
- 小学校や中学校など学外授業としての湿地見学、葦笛作り
- 湿地見学を組み込んだ大阪案内まちあるきツアー開催
- マスメディアへの情報提供・発信（大阪日日・毎日・他）



※大阪市生物多様性戦略 具体的施策No.【 9、1, 2, 3, 4, 6, 7、9, 11, 12, 13, 15, 16, 17 】 関連

各主体が実施する生物多様性保全に関する取組みの情報共有

◆ 過去の取組みにおける他団体との連携実績

□ 大阪市立自然史博物館

第45回特別展 ネコと見つける 都市の自然のアーバンプロジェクト調査地として選ばれ
学芸員による季節ごとの調査、特別展における専用ブース設置。

Nature Study 2014 60巻及び特別展解説書に記載など。

また長谷川匡弘学芸員のご協力を得、近鉄上本町店、ハルカス近鉄本店、サイエンスカフェなどなど数多くの場所において湿地含む大阪の自然について講演開催。

□ 関西自然保護機構の地域自然史と保全研究発表会2015 ポスター展示参加

「大阪市内に残る湿地保全のための取り組み」を発表

□ 大阪自然環境保全協会開催「第3回草地生態系保全シンポジウム」において発表

□ 動物園前1番街（商店街）主催 第20回動物園前サイエンスカフェにおいて

「街の中の湿地－消滅の危機にある身近な自然－」開催

□ 近隣小学校及び中学校

学外授業として元々は市外まで赴いていたが、同区内にこの湿地があることを
知り、身近な自然を校外学習の場として手軽に体感することが出来た。

□ オープン台地 in OSAKA 及び、NPOもう一つの旅クラブ

まち歩きに大阪の自然を組み込むことにより、参加者に自然がない大阪とのイメージを
一新してもらうことができ、それにより大阪市内の自然への興味、保全への意識を喚起した。

◆ 生物多様性保全の取組みを進める上での課題

□ 建設局売地であったものが個人所有となり、何時まで保全できるか予断を許さない状況

□ 活動に携わることの出来る人員確保と時間の捻出が困難

各主体が実施する生物多様性保全に関する取組みの情報共有

(様式1)

＜大阪市エコボランティア・大阪市環境局＞

→ 大阪市エコボランティアが主体的に取り組んでいる生物多様性関連のプログラムとして記載
(発表済も含む)

「大阪市生物多様性戦略」の取組みである

【基本戦略A】方針I「身近なところで生き物・植物の発見」

◆ 取組内容「大阪市域生き物調査」

- ・ 実施方法 毎月1回、市内33コースでの生き物を調査するもの。(10時～15時)
一般参加を募り、エコボランティアが**生き物調査データ**を整理し、報告をなにわエコスタイルのページから公開

◆ 取組内容「自然体験観察園 野草広場再生・実生林創生プロジェクト」

- ・ 実施方法 毎月1回午前：自然体験観察園の野草広場と実生林において、生物多様性が学べる場所としての維持管理作業と、**生き物調査データ**を蓄積

◆ 取組内容「藍を育て・藍で染め・藍で環境を学ぶ連続講座」

- ・ 実施方法 年7～8回（一般向け講座と維持管理作業）自然体験観察園の畑でタデアイを栽培し、**生き物観察**を行い、藍染めを通じて**生物多様性とエネルギーを学ぶ**

◆ 取組内容「常時湛水による古代米づくり」

- ・ 実施方法 自然体験観察園の水田Bにおいて、常時湛水による古代米づくりを通じて、慣行農法による水田と比較して**生物多様性を学べる講座**を担当。水田・湿地の生き物のほか、こもを編み、樹木に巻いて冬越しの**生き物観察**も行う。

各主体が実施する生物多様性保全に関する取組みの情報共有

＜大阪市エコボランティア・大阪市環境局＞

◆ 過去の取組みにおける他団体との連携実績

- ・ 大阪市立環境科学研究センター
両生類・爬虫類の同定のため、研究用標本として寄贈した。
- ・ 大阪市立自然史博物館
同定が困難な動植物について、博物館に同定を依頼し、標本を寄贈した。
調査中に採集した野鳥の死骸を同定していただき、寄贈した。

◆ 生物多様性保全の取組みを進める上での課題

- ・ 人員確保
生き物に関心のある若い人たちに、調査経験を重ねてもらって、スタッフの新陳代謝ができるような体制にしたい。
- ・ 広報
調査データを、多くの方に見ていただき、情報共有したい。
(市域調査結果は公開しているが、観察園は公開されていない。)

各主体が実施する生物多様性保全に関する取組みの情報共有

(様式1)

<大阪市環境局>

◆ 取組内容 「小学校での生き物さがし」

平成30年3月に策定した「大阪市生物多様性戦略」の取組みである【基本戦略A】方針Ⅰ「身近なところで生き物・植物の発見」を具体化するため、市内30校において、各校春夏・秋冬の年2回（計60回）生き物さがしの授業を実施。

□ 実施方法等

対象授業：4年生の理科特別授業等（2コマ） ※一部3年生も含む

講師：大阪市エコボランティア及び環境科学研究センター職員など

内容：学校内に生育・生息している昆虫や植物などについて、講師と児童が調査。

成果：講師が、生き物さがしで収集した生き物の種類を特定し、
小学校生き物さがしリストを作成。

□ 基本プログラム 時間 100分（休憩時間含む）

00:00～00:05 環境局委託事業者による挨拶・講師紹介

00:05～00:15 講師による児童への生物多様性の意義と調査内容の説明

00:15～00:45 校庭、学習園などでの生き物さがし

10分休憩

00:55～01:05 採集物の整理、生き物同定、地図への書き込み

01:05～01:30 各班発表、講師による採集物の説明

01:30～01:40 まとめ

各主体が実施する生物多様性保全に関する取組みの情報共有（様式2）

<大阪市環境局>

◆ 過去の取組みにおける他団体との連携実績

□ 大阪市立環境科学研究センター

「小学校での生き物さがし」において講師を務めていただき、調査データの解析を依頼している。

□ 大阪市立自然史博物館

大阪自然史フェスティバル2017, 2018において、博物館の協力のもと、生物多様性に関するシンポジウムを開催した。

□ リコージャパン株式会社

ECO縁日2018（H30.11.3）において、壁に投影した自然体験観察園を背景に、子どもたちが描いた絵が自由に動き回る「紙アプリ」を提供いただき、生物多様性保全の普及啓発を行った。

◆ 生物多様性保全の取組みを進める上での課題

□ 人員確保

講座やイベントを実施するための人員確保が難しい。

□ 情報収集

多様な団体と連携して取組みを実施したいと考えており、また各団体の取組みを紹介するなど普及啓発に努めたいが、広く、市域における取組みの情報収集が難しい。